

メキシコ ベリー産業におけるリーダーシップを強化

Blueberries Consulting 2025年10月14日

輸出量の80%を超える米国市場への過度の依存等、成功の裏では増大する課題に直面

過去10年間の国内の課題と世界的なチャンスの中で、メキシコはベリー類の生産と輸出において世界有数のプレーヤーとしての地位を確立してきた。ブルーベリー、ラズベリー、イチゴ、ブラックベリーの世界への輸出で第1位にランクされており、年間輸出額は30億ドルを超え、米国とカナダを主な輸出先としている。

拡大する産業 メキシコの果樹農業部門は、ミチョアカン州、ハリスコ州、バハカリフォルニア州及びグアナフアト州に集中しており、外国からの投資、技術の移転、知識の蓄積、そして地元生産者の尽力が組み合わさることで、持続的な成長を遂げてきた。

多国籍企業と専門の苗木業者らは多収性品種を導入し、一方、メキシコの実産者らは技術的に高度な灌漑インフラ、温室システム、栽培ポットと培地の使用に投資してきた。

全国ベリー類輸出業者協会(アネベリーズ)の数字によると、メキシコは生産量の97%近くを輸出しており、米国市場に近いこと、物流時間が短縮され、出荷先で高い鮮度を維持できるため、有利な商業的出荷期間を獲得している。

現在の主な課題 しかし、このセクターの成功は、輸出の80%以上を米国市場に依存する等、増大する課題に直面している。中でもブルーベリーは輸出の90%以上が米国に向けられており、この分野は保護主義的な貿易政策や消費者需要の変化にさらされている。

労働力不足も課題で、季節労働者をめぐる競争の激化はコストを増加させ、収穫の継続性を脅かしている。

ミチョアカン州、ハリスコ州等の産地は、集中的な水使用に起因する課題に直面しており、それが地域社会との緊張を生み出している。より効率的な灌漑システムへの移行が求められているが、それは技術と作物の遺伝的改良によってのみ達成可能である。

認証とトレーサビリティに関しては、国際市場では安全性、持続可能性、社会的責任の観点からますます厳格な基準が求められており、中小規模の実産者は多額の投資を余儀なくされている。

現在のシナリオにおけるチャンス 同時に、世界的な状況は、高品質な生鮮果実に対する需要の高まりに対応してアジアや中東に出荷先を求める市場の多様化が不可欠になるなど、メキシコの産業に新たな機会をもたらしている。メキシコは、日本、アラブ首長国連邦及び中国で市場開拓を進めている。

付加価値や製品の加工に関しては、個別急速冷凍(IQF)ライン、果汁、栄養補助・機能性食品の開発により、生鮮品の輸出への依存度を軽減できる可能性がある。

遺伝子イノベーションに関しては、ドリスコルズ、フォールクリーク、プラナサ等の国際的な育苗企業との提携により、地域の条件に適応し、貯蔵期間が長く、病害虫に強い品種の開発が可能となっている。

国のブランドやイメージに関しては、メキシコ産ベリー類が最高品質の製品として国際的に認知されていることが、農業食品分野におけるメキシコのブランドを強化している。

長期予測 アナリストらは、米国とアジアの消費傾向が続けば、メキシコは2030年までにベリー類の輸出を20%増加させる可能性があるかと予測している。しかし、彼らは、この分野の将来を確実にするには、環境的・社会的持続可能性が極めて重要であると警告している。

ラボバンクのレポートは生鮮果実部門に関し、「メキシコには地理的に市場に近いという競争上の優位性があるが、それにはイノベーション、多様化、持続可能性が伴わなければならない。この方法によってのみ、永続的なリーダーシップを確保できる」と指摘している。